

日本の原風景を ミュージアムロードに創る (人の街が息ずき芸術・文化が薫る)

街を繋ぐ移動手段として車の為に創られた道路では人が息づく街の表現は難しい。その為には人を主として街に点在する個性溢れる多様な芸術・文化を繋ぎ点から面として構築する事である。面として構築する為には街として一つの太い軸が必要である。

今回の提案コンセプトは芸術・文化を緑で感じながら散策できる『ミュージアムロード』を中心軸とし、そこから延びる路が点在する芸術、文化、施設を移動手段の車を排除した人の歩幅で散策回遊できる息づく街の構成である。

その軸は都会の中心で緑、小川のせせらぎ(森の中)を感じながら散策できる日本の原風景の里山的なあぜ道を構築しそこから延びる露地に芸術・文化薫る個性が息づく施設を一体化とした面として街全体をミュージアムロードの森(Museum Road forest)として構築する事とした。

それは将来における循環型社会、生態系と共生する街のあり方だと考えている。

春の小川は
さらさらいくよ
岸のすみれや れんげ
の花に
すがたやさしく咲けよ咲けよと
色うつくしく ささやきながら
遊べ遊べと
春の小川はさらさらいくよ
えびやめだかやこぶなの群れに
きょうも一日 ひなたで泳ぎ
遊べあそべと ささやきながら

春夏秋冬
六甲から流れでる小川のせせらぎの音
水面(みなも)・光の反射と風のさざなみの中で

自由に起こるストリートパフォーマンスが人を呼び集める。それは与えられた規制の中で自己の表現をするのではなく自然発生的に自由に自己を表現できる文化・芸術の在り方の一つだと考える。



外壁緑化が森を構成



夜は森(建物群から漏れる光)

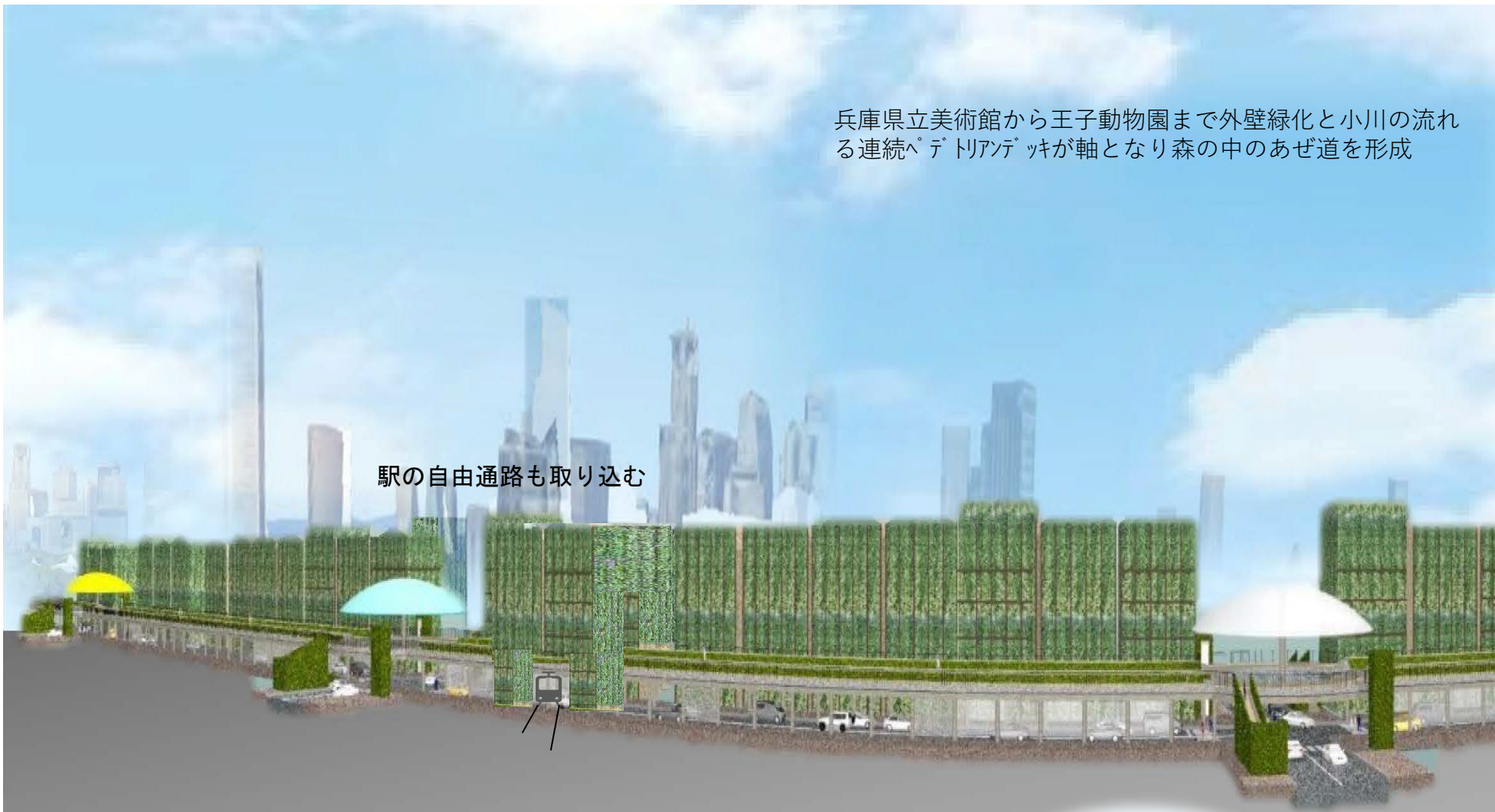


夏祭り



冬は六甲からの水を止めBMX、スケボー、ローグなど

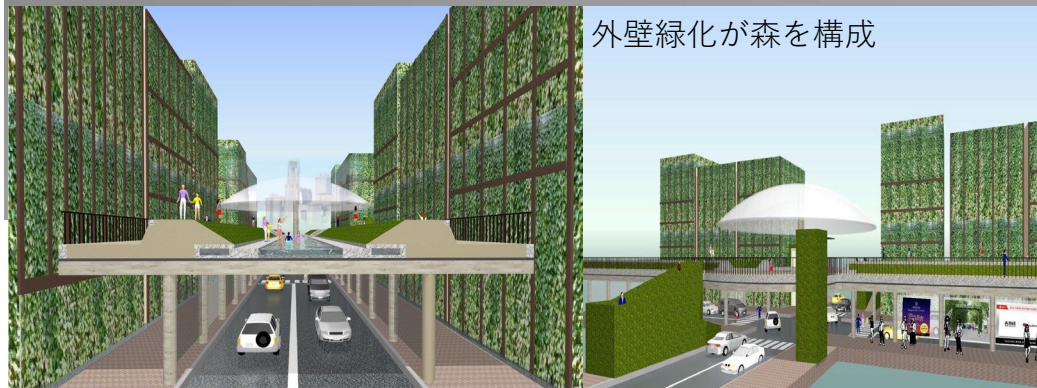
兵庫県立美術館から王子動物園まで外壁緑化と小川の流れる連続ペデリアンデッキが軸となり森の中のあぜ道を形成



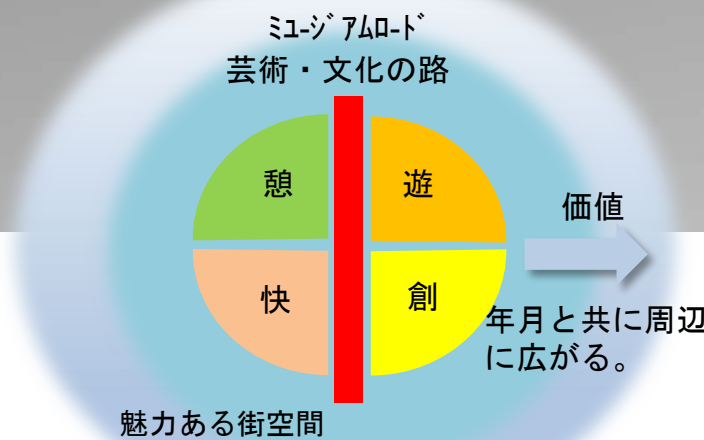
駅の自由通路も取り込む



高架道路の下は憩いの場所として整備



外壁緑化が森を構成



ミュージアムロードを中心軸とし、そこから延びる路が点在する。散策できる路から延びる露地には個性が息づく施設があり一体化させることにより芸術・文化が薫るミュージアムロードの森(Museum Road forest)として構成できる。



車道と分ける大型デジタルサイネージにて芸術・文化の発信。また車道と散策道と視線を防ぐ

プロジェクト計画の基本は官が主導で行うが民の協力が一番である。構想のもとになるのは協働の意識の構築である。散策道の維持管理は民の協働の意識が無くしては成り立たない。コンセプトのある軸が実現できれば将来は必然的に民の意識が生まれ協働の意識のもと継続と未来につながるまちになり、年月の経過と共に周囲に広がり街全体に芸術・文化が薫る。



緑で覆われた板塀の有無で道空間が変わる



全ての人にやさしいまち